

日本初の「流域デジタル水防システム」を実践投入 ～ 見附市総合防災訓練を6月14日（日）に実施します ～

見附市では、大雨による洪水や土砂災害等、近年激甚化している気象災害に的確に対応するとともに市民の防災意識の向上を図るため、毎年出水期の前に全市一斉防災訓練を実施しています。

今年度は、日本初で試行中の「デジタル水防」の活用や、「国際基準を取り入れた次世代型避難所」の開設といった新たな要素も取り入れて実施するので、お知らせします。

本訓練により、より一層の災害対応能力の向上・強化を図るとともに、市民の防災意識のさらなる向上につなげていきます。

1. 実施概要

- (1) 実施日時 令和8年6月14日（日）午前8時15分開始
- (2) 拠点会場 見附市役所大会議室（災害対策本部）、今町小学校
- (3) 想定する災害 水害

2. 本訓練の「3大トピック」（すべて取材可能）

(1) 【日本初】流域デジタル水防システムの活用（災害対策本部）

信濃川下流河川事務所等と連携し、現場の消防団が活動する状況やリアルタイムの写真を本部で一元管理。デジタル技術を駆使した迅速な意思決定のプロセスを公開します。

(2) 【国際基準&新規】「スフィア基準」を取り入れた避難所開設（今町小学校）

避難者1人あたり「3.5㎡」の居住スペース確保を実際にレイアウト。さらに、男女共同参画の視点に立った、誰もが安心できる次世代型の避難所運営を実践します。

(3) 【協定企業連携】民間パワーを結集した防災対策（今町小学校）

協定企業と連携した炊き出し訓練や健康保持活動の啓発など、官民一体となった最新の防災物品・対策を紹介します。

3. 主な訓練内容

- (1) 災害対策本部運営訓練（※取材可） 会場：見附市役所大会議室
- (2) 情報伝達訓練 発信：サイレン、各種 SNS、緊急告知ラジオ等
- (3) 全市一斉避難訓練 会場：各町内の一時避難場所
- (4) 個別避難計画訓練（※取材可） 会場：今町小学校
- (5) 避難所開設・受入訓練（※取材可）（会場：今町小学校）

※今町田園地区のコミュニティの皆様は指定避難所の今町小学校まで避難されます。

- (6) 防災意識啓発（※取材可）（会場：今町小学校）

4. 訓練参加機関（予定）

信濃川下流河川事務所、長岡地域振興局、市内町内会及び自主防災組織、ほのぼの田園地区ふれあい協議会、見附警察署、見附市消防団、NTT 東日本、船山（株）、東北電力ネットワーク（株）、（株）大衆焼肉きらく、（株）バイタルネット、見附市消防本部、見附市

5. 取材についてのお願い

当日、本訓練のご取材を希望される場合は、情報集約の起点となる【午前8時まで】に見附市役所大会議室（災害対策本部運営訓練会場）までお越しくください。担当者が受付およびご案内をいたします。

令和8年度 見附市総合防災訓練実施要綱

1 目的

大雨による洪水や土砂災害等、甚大な被害を及ぼす災害から市民の生命・財産を守るため、災害対応能力の向上、強化を図ること及び市民の防災意識向上や発災時の迅速、的確な避難につなげることを目的とする。

2 実施日

令和8年6月14日（日）

3 主催

見附市

4 訓練参加機関（順不同）（予定）

信濃川下流河川事務所、長岡地域振興局、市内町内会及び自主防災組織、ほのぼの田園地区ふれあい協議会、見附警察署、見附市消防団、NTT 東日本、船山（株）、東北電力ネットワーク（株）、（株）大衆焼肉きらく、（株）バイタルネット、見附市消防本部、見附市

5 訓練実施概要

（1）災害対策本部運営訓練

水害や土砂災害時の対応を確認し、避難情報を発令する訓練を実施する。

※信濃川下流河川事務所と連携し、消防団が現場で活動している状況や現場写真などの情報をリアルタイムに共有するための、日本初となる流域デジタル水防システムを活用した訓練を実施する。

会 場：見附市役所4階 大会議室

開始時間：8：15

（2）情報伝達訓練

防災サイレン、緊急情報メール、緊急情報電話サービス、緊急告知ラジオ、SNS、HP等で緊急情報を伝達する訓練を実施する。

発信時間	情報伝達内容	備考
8：45	氾濫注意水位到達	警戒レベル2
9：00	高齢者等避難	警戒レベル3
9：15	避難指示	警戒レベル4
10：00	避難情報解除	

(3) 全市一斉避難訓練

各町内（自主防災組織）が任意に設定した避難訓練を実施する。

会 場：各町内の一時避難場所・指定避難所（今町小学校のみ）

開始時間：9：00

(4) 災害時避難行動要支援者避難訓練

個別避難計画に基づく災害時避難行動要支援者の避難訓練を実施する。

会 場：今町小学校

開始時間：9：00

(5) 避難所開設・受入訓練

- ・自主防災組織と地域コミュニティとの協働による避難所開設・受入訓練を実施する。
- ・国際基準(スフィア基準)に準拠した、避難者1人当たり3.5㎡(1.88m×1.88m)の居住スペースの確認、確保訓練(新規)
- ・男女共同参画の視点に立った避難所開設訓練(新規)

会 場：今町小学校

開始時間：9：00

協働団体等：各自主防災組織・ほのぼの田園地区ふれあい協議会

(6) その他

以下の展示・訓練等を今町小学校で実施する。

- ・蓄電池、災害携行品、備蓄品展示（船山（株））
- ・電力災害対応説明会（東北電力ネットワーク（株））
- ・災害時用公衆電話（特設公衆電話）設置・通信訓練（NTT 東日本（株））
- ・協定企業と連携した炊き出し訓練((株)大衆焼肉きらく)(新規)
- ・災害時の健康保持活動の啓発活動((株)バイタルネット)(新規)
- ・避難者支援システム（防災 DX）リーフレット配布

開始時間：9：00

激甚化する水害に対して 水防活動の情報共有が簡単にできる ～ 流域デジタル水防システム ～



流域デジタル水防システム(①消防団・水防団用ツール)の概要

水防活動時の情報共有に関する主な問題・懸念点

- 参集・活動時の情報伝達手段に電話・無線を用いている団が多く、各種の情報共有に苦慮されている。
- 水防活動に役立つ情報は、気象情報や洪水に関する情報、避難に関する情報など多岐に渡るが、それらの情報を取得するためのウェブサイトが多すぎてわかりにくく、地域の情報を閲覧するのに手間がかかる。
- 電話や無線などの音声だけでは現場状況が伝わらない。
- 現場にいる団員の正確な居場所が分からない。

水防活動の初動の遅れに繋がる

デジタル水防(仮称)導入による想定される効果

- ① **LINEの活用による情報の一斉共有**
LINEのリッチメニューを活用することで、各種情報の共有を団員全員で可能
- ② **洪水時に役立つ情報がワンタッチで取得可能**
地域の河川水位や河川ライブカメラ情報、気象情報、避難情報をワンプッシュで取得
- ③ **現場の災害状況の画像や動画をその場で地図上に登録**
音声による情報共有や位置情報が不明な写真による現場情報のやりとりを地図上で団員同志で共有
- ④ **団員の居場所やコメントを地図上で共有**
団員がどこに今いるのかを地図上で共有することで、効率的な水防活動の実施と団員の安否確認が可能

水防活動の初動の迅速化と
的確な情報共有に期待

デジタル水防(仮称)のイメージ画面

地域に特化した洪水時に役立つ情報がワンタッチで取得可能

地図上で現場状況を共有可能

投稿者: [redacted]
日付: 2024/12/01 10:13:38
危険度ランク: 低
コメント: 水防活動中

現地写真

団員の居場所

リッチメニュー

まずはここから
名前登録 河川情報 避難情報 気象情報
水防マップ 位置情報送信 写真・動画送信 コメント送信

流域デジタル水防システム(①消防団・水防団用ツール)の概要

河川情報

ワンプッシュで当該地区の川の防災情報が閲覧可能



避難情報

ワンプッシュでの発令中の避難情報や避難所開設情報が閲覧可能(川の防災情報)



気象情報

・気象情報を閲覧可能なサイトへ直接アクセスできる機能

気象サイトの選択

閲覧する情報を選択してください。

気象庁 今後の雨 (15時間予測)

キキクル (浸水)

キキクル (土砂)

流域デジタル水防システム(①消防団・水防団用ツール)の概要

新着通知機能

写真・動画・コメント投稿があった際に、登録されている団員全員に投稿内容を通知できる機能

水防マップ

団員の現在地や撮影した写真を地図に投影し、誰でも見れるマップ



位置情報送信

団員の今いる場所を位置情報を付与して、「水防マップ」に投影する機能

写真・動画送信

団員が現場で撮影した写真・動画に位置情報を付与して、「水防マップ」に投影する機能

コメント送信

・コメントのみを追加できる機能(ボタンでの選択)

※写真・動画投稿にも付与可能

コメントを選択(手順 4/4)

写真につけるコメントを選択してください。

水位上昇中

浸水発生

土砂災害発生

通行不可能

水防活動中

流域デジタル水防システムの概要

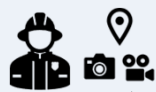
○「流域デジタル水防」は、LINEとGoogle Mapsを活用し、各自治体(水防団)活動の写真をリアルタイムで投稿できる仕組みであり、それらの写真は河川管理者版ツールに一元的に集約され、流域全体の災害の発生状況及び水防活動を河川管理者・関係市町村の災害対策本部等が共有可能とするもの

流域デジタル水防システム

①消防団・水防団用ツール

友達登録で使用可能

A市



B市



②河川管理者及び自治体災害対策本部用ツール

✓ 浸水状況の写真等を河川管理者及び関係市町村等で共有



インターネット環境での構築・運用を想定

現場の災害状況や水防活動状況をLINE上で投稿・閲覧可能

流域沿川の市町村の消防団・水防団が共有していた情報を1つの地図で共有するイメージ

流域デジタル水防システム (②河川管理者及び自治体災害対策本部用ツール)の概要

○「②河川管理者及び自治体災害対策本部用ツール」は、googlemapにLINEで消防団・水防団から登録された写真情報などが一元的に集約され、流域全体の災害の発生状況及び水防活動を河川管理者・関係市町村等が共有できるマップである



流域デジタル水防システムのモデル試行について

- 「流域デジタル水防システム」を、R8年度に見附市、燕市の2市でモデル地域として試行する。
出水期間等にて運用した後にアンケート調査等を行い、必要に応じてシステムや運用の仕方について改良を行う。
- R9年度に、その他の流域市町村へのモデル試行の拡大を目指す。
- モデル試行期間中のシステム管理や改良は信濃川下流河川事務所が行う。

	2025年度			2026年度(R8年度)												2027年度(R9年度)						2028年度(R10年度)								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3															
1年目				見附市・燕市の2市でモデル試行を実施																										
				試行版ツールの提供		出水期間における試行版ツールの活用 (訓練などでの活用を想定)						改善点などの整理		試行版ツールの改善																
				運用ルール案の作成																										
2年目																流域市町村へモデル試行を拡大														
3年目																						本格的試行								